

- 問(一) (1) || 陥没 (2) || 輪郭 (輪廓) (3) || 冒頭 (4) || 培 (5) || 渦中
- 問(二) 既存の知識や経験では処理できず、持て余してしまうこと。(二十七字)
- 問(三) 人々のやりきれない思いをくみとり言葉として形にすることで、区切りを与えることができるから。(四十五字)
- 問(四) 既存の知識や構想を捨てる覚悟で問い直すことで、ものごとの新たな可能性が見いだされるといふこと。(四十七字)
- 問(五) 人智を超える事象に接してなお人々の思いに形を与える言葉を紡ぐために、吟遊する哲学には既存の知識を捨てさり、経験と言葉がともに現れる現場に立ち戻るといふ詩的な営みが必要だといふこと。(九十字)

問(一) (1) 興ざめた

(2) あらかじめ念を押した

問(二) 祖父母との別れ方を気遣う翔太に動揺し、取り繕おうとしたから。(三十字)

問(三) 翔太が祖父母と親密過ぎないのは、別れに後腐れが伴わずむしろ都合だということ。(三十九字)

問(四) 翔太に余計な気を遣わせ、両親の老化も感じたうえに、空気を変えようとした話題も逆効果となり、陰うつな気持ちになったから。(五十九字)

問(五) 未成熟で自分の庇護下にあると思っていた翔太が、既に傷つきながらも一人で進もうとする意志を持つことに気づき、別れの寂しさを抱えつつも見守ろうとする思い。(七十五字)

三

問(一)

(1) Ⅱ 広大に付与されたので

(2) Ⅱ ますますもの寂しくなっている

問(二)

豊国の馬場は、思う存分糸をよれる広さがあるので、製糸に都合な場所だということ。(四十字)

問(三)

多くの人々が、絶え間なく列を成して豊国神社に進んでいく様子。(三十字)

問(四)

以前は荒廃していた豊国神社に、霊験あらたかだと知るや突如身分の上下を問わず押しかける人々の様子があさましく思われるから。

(六十字)

問(五)

豊国神社にあやかり、自分たちの家も地震の被害から免れたいと願ったから。(三十五字)

四

問(一) (1) || やまいをもつてくすりをこえば

(2) || としまさにくれんとし

問(二) (a) || 借金の返済を求めなかった

(b) || まだ借金を返さなかった

問(三) もし善庵先生がいなければ、今日まで生きてあなたにお会いすることはできませんでした。

問(四) 母親は息子が何を担保に自分の薬を買ったのかを知ろうとする、ということ。(三十五字)

問(五) 薬の代金のかわりに慶同のために布を織って、その長寿を祈願するとともに、慶同の子孫が途絶えずに繁栄することを願ったため。

(五十九字)